

大好きなおじちゃん・おばちゃんの梨

栃木県宇都宮市立御幸が原小学校 五年 宮田 妃佳莉

「幸水・豊水・かおり・新高」

これは、毎年七月下旬から九月中旬にかけて、祖父の家に送られてくる梨の名前だ。祖父の実家は千葉県市川市で昭和以前から代々続いている梨農家だ。私は毎年お盆になると祖父と一緒に祖父の実家がある千葉県市川市に遊びに行く。そこには私が小さな頃から「梨畑のおじちゃん・おばちゃん」と呼んでいる、祖父の兄夫婦が住んでおり梨の栽培をしている。

千葉県は梨の栽培が盛んだ。梨のブランド名も市町村単位でつけており、おじちゃんの家の出荷用の梨の箱には「市川の梨」と書いてある箱が作業場に沢山置いてある。

果物は梨もそうだが、収穫までにとっても手間ひまがかかる。梨は、秋から冬にかけては木の枝のせん定、畑の土作り。春先には摘花、受粉。五月から六月にかけては摘果、梨の袋がけ。特に受粉は実がきちんと成るように梨の花一つ一つに筆を使い手作業で受粉している。と以前おじちゃんから聞いたことがある。それに果物は天候にも左右されやすい。毎年お盆に遊びに行くと、おじちゃん、おばちゃんが、「今年は天候が良かったから甘くておいしいよ」とか、「今年は気温が上がらなかつたから甘みが薄い」とかまるで自分の子供のように関心しながら梨の出来具合を私に話してくれる。

おじちゃん、おばちゃんは、毎年欠かさず祖父の家に丹精込めて作った梨を送ってきてくれる。私はそれを家族みんなで食べるのが大好きだ。今まではただ甘くておいしいと思って食べていたけれど、今年の夏は、暑い日も寒い日も丹精込めて梨を育てているおじちゃん、おばちゃんに感謝しながら大好きな梨を家族みんなで沢山食べたいと思う。

今年も夏がくるのが今から楽しみだ。